

看護学教員養成課程

Education Program for
Nursing School Teachers

2026



看護学教員養成課程

Education Program for Nursing School Teachers

科学的根拠に基づく看護学教育の実践に必要な知識・技術・態度を修得し、
看護とその教育の充実、発展、革新に向け寄与する人材の育成を目指します。



学長挨拶

柏倉 健一 Kenichi Kashikura

本学では、学部・大学院を通じて看護人材養成に取り組む一方で、看護学教員養成課程を開設し、看護師養成学校の教員を養成しています。この課程は、平成24年から、本学地域連携・キャリア開発センター事業の一環として実施しているもので、これまでの

13年間で、計195名の修了生を送り出しています。修了生は地域の看護師養成機関や医療機関へと戻り、看護師養成学校における教育や病院での院内教育などで活躍しています。

本学は、杉森みどり初代学長のころから、日本の看護教育をリードしてきました。こうした伝統のうえにたち、本課程は日本の中でも特色ある教育プログラムとなっており、大学基準協会による大学認証評価においても、きわめて高い評価を受けています。本課程を修了すると、厚生労働省による専任教員養成講習会修了者として認定されます。また、大学院博士前期課程のキャリア開発コースへステップアップを目指すこともできます。

看護人材養成への高い志をもつ皆さん、群馬県立県民健康科学大学で学んでみませんか。



地域連携・キャリア開発センター長挨拶

飯田 苗恵 Mitsue Iida

地域連携・キャリア開発センターは、県立の保健医療系大学の役割を果たすため、地域の保健医療の発展を担う人材の育成に取り組んでいます。そのため、専門職向けの講座、保健・医療機関等との連携による課題解決など多様な事業を展開しており、特に、

変化する社会や地元のニーズに対応するため、専門職向けのリスクリング・リカレント教育の推進に力を入れています。

看護学教員養成課程は、この主要事業の1つであり、専任の教員（看護学部/看護学研究科兼任）を講習責任者として1年間の教育プログラムを提供しています。本課程の教育プログラムの特徴は、本学の理念に基づく看護基礎教育との連動、教授陣や設備等の学修環境の活用、本学が提供している看護学実習指導者養成講習会及び看護学研究科博士前期課程との修得単位のつながり等、大学を最大限に活かした看護教育実践力を養うための取り組みです。

私たちはこの取り組みを通して、看護学に携わる教育者一人一人の目標の実現を支えるとともに、その先にある患者・家族等の健康と生活の質に役立ちたいと考えています。私たちと新たな学びへの一歩を踏み出してみませんか。

特 色

群馬県立県民健康科学大学看護学教員養成課程は、2012年に大学の地域連携センター事業として開設され、13年が経過しました。本課程は、大学の教育理念に基づき独自の統合カリキュラムを編成し、教育を展開しています。本課程の最大の特徴は、**大学看護学部の看護基礎教育と連動**している点にあります。看護学部がバックアップ体制を整え、大学の学習環境を最大限に活用して、実際の看護基礎教育の現実を身近に感じられる**ダイナミックな授業**を展開しています。これにより、本課程生は、学修した知識と教育実践とのつながりをもちながら、1年間学修することを通して、**看護基礎教育・看護継続教育の実践に必要な能力**を着実に修得しています。この能力は、**看護学教員を目指す看護職者**だけでなく、病院の実習指導者や院内教育担当者など、**学生や後輩看護師教育に携わる看護職者**にとって教育実践上の基盤になります。

看護学教員養成課程のあゆみ

2012年 4月	群馬県立県民健康科学大学地域連携センターに開設される。
2018年 4月	大学院看護学研究科博士前期課程「キャリア開発コース」開設に伴い、大学院への進学の手がけが開かれる（10単位を既修得単位として認定）。
2023年 4月	看護学実習指導者養成講習会の開設に伴い、講習会から本課程への進学の手がけが開かれる（講習会の5単位を既修得単位として認定）。
2024年 4月	「地域連携センター」を「地域連携・キャリア開発センター」に名称変更。

本課程は、厚生労働省による専任教員養成講習会の認定を受けています。

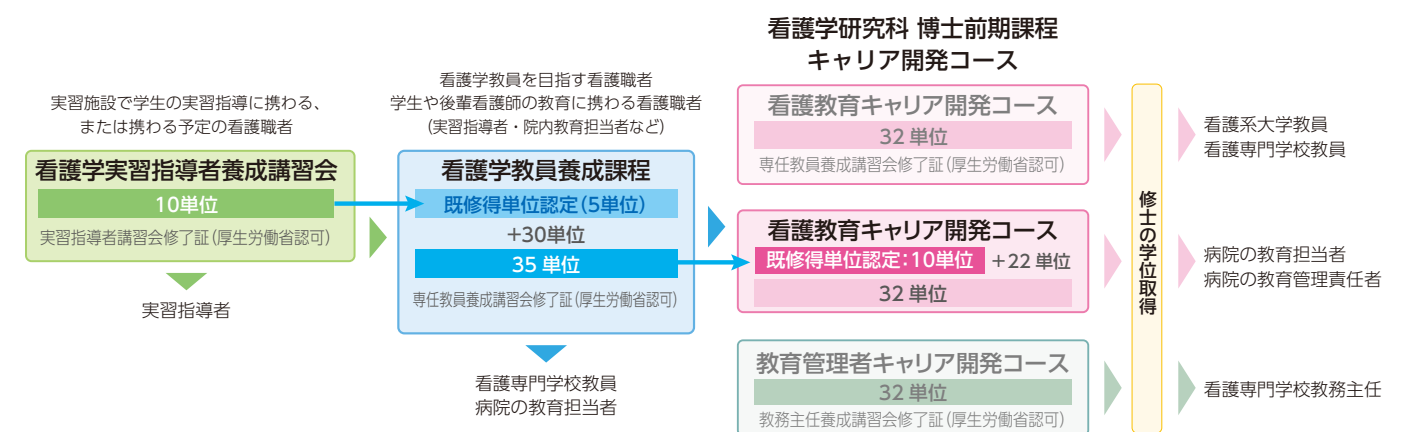
本課程は、厚生労働省教育訓練給付金（一般教育訓練）講座の指定を受けています。

「キャリア開発コース」

大学や専門学校など看護基礎教育機関の看護学教員として必要な教育実践力、または、教育管理責任者として必要な組織運営力を担える人材の養成を目指すコースです。

2019年 公益財団法人大学基準協会による**大学認証評価**において、**極めて高い評価**を受けました。

看護学教員養成課程と看護学実習指導者養成講習会・ 看護学研究科博士前期課程（キャリア開発コース）のつながり



キャリア開発コース

看護師として5年以上の実務経験のある教員のキャリア・ディベロップメントに向け、教授活動力及び組織運営力を開発・発展できる能力の修得を目指します。研究科に2年以上在籍し、所定の単位（32単位以上）を修得するとともに、必要な研究指導を受けた上で学位論文の審査及び最終試験（口頭試問）に合格することが修了要件です。

授業科目と担当教員

分野	科目名	単位数	時間数	担当教員	4月	5月	6月	7月	10月	11月	12月	1月	2月
基礎分野	看護実践と倫理 ※	1	15	金谷悦子 高橋裕子									
	教育実践と倫理 ※	1	15	金谷悦子 高橋裕子									
	情報と教育 ※	1	15	狩野太郎 非常勤講師									
	教育の原理 ※	1	15	非常勤講師									
	教育評価論 ※	1	15	非常勤講師									
	青年期の発達と学習 ※	1	15	垣上正裕 非常勤講師									
専門分野	看護の本質と専門性Ⅰ ※	1	15	山下暢子									
	看護の本質と専門性Ⅱ	1	15	高橋裕子									
	教員と学生の理解 ※	1	15	山下暢子 河内直美									
	看護学教育制度論	1	15	山下暢子 河内直美 非常勤講師									
	看護学教育課程論Ⅰ (カリキュラム編成の基礎)	1	15	山下暢子 高橋裕子									
	看護学教育課程論Ⅱ (カリキュラム構造の理解)	2	30	高橋裕子 非常勤講師									
	看護学教育展開論Ⅲ (カリキュラム編成の実際)	5	135	高橋裕子									
	看護学教育授業展開論Ⅰ ※	1	15	非常勤講師									
	看護学教育授業展開論Ⅱ (講義)	5	120	松田安弘 高橋裕子					教育	実習			
	看護学教育授業展開論Ⅲ (演習)	3	90	松田安弘 高橋裕子									
	看護学教育授業展開論Ⅳ (実習) ※	3	90	松田安弘 高橋裕子					教育	実習			
	看護学教育評価論	2	45	服部美香									
	看護学教育研究 (研究成果の活用)	2	45	松田・宮崎 上山・清水 河内・高橋									
	看護学教育組織運営論	1	15	大澤真奈美 非常勤講師									

35 750

※ 科目履修が可能な科目

【主な授業担当教員】

教授 松田安弘、山下暢子、服部美香、狩野太郎、大澤真奈美、宮崎有紀子、清水裕子
准教授 高橋裕子、金谷悦子、上山真美
講師 河内直美、垣上正裕

【教育担当者】高橋裕子

本課程では、大学看護学部教員を中心に授業を提供しています。また、専任の教育担当者が1年間の学修過程をサポートしています。

※看護学教育授業展開論Ⅱ・Ⅳでは、授業担当教員の指導により、大学、専門学校で教育実習を行います。

主な年間スケジュール(令和7年度)

入学式	4月4日	教育実習	10月15日～11月15日
授業開始	4月7日	冬期休業	12月25日～1月4日
公開授業	7月24・25日	公開授業	2月3日
夏期休業	8月4日～9月30日	修了式	3月25日

授業の様子

看護学教育授業展開論Ⅱ



看護学教育授業展開論Ⅱ(講義)では、看護学の講義の特徴、授業設計とその展開について学修します。また、看護学部学生に提供されている授業を参加観察します。その後、看護学教育課程論とこの科目の学習成果を基に、実際に講義の授業設計・模擬授業を行います。

看護学教育授業展開論Ⅱ・講義 模擬授業



看護学教育授業展開論Ⅲ・演習 模擬授業



看護学教育授業展開論Ⅲ(演習)の講義を受けた後、看護学部学生に提供されている授業をその演習の前提となる講義も含めて参加観察します。その後、看護学演習における「教授＝学習活動」の特徴、学生の主体的学習を促すための授業設計について学修します。また、この学習成果と教育実習での経験を基に、実際に技術演習の授業設計・模擬授業を行います。



2026年度 入学者選抜の概要

募集定員	20名	選抜方法	「面接」「小論文」書類審査
修業年限	1年間(12ヶ月)	試験会場	群馬県立県民健康科学大学
授業料	250,000円(県内) 300,000円(県外)	受験料	8,000円
第1次出願期間	2025.10.14～11.28	第2次出願期間	2026.1.13～2.9
第1次入学試験日	2025.12.11	第2次入学試験日	2026.2.19
合格発表日	2025.12.18	合格発表日	2026.2.26

※詳細については、本学ホームページをご確認ください。

※2次募集は、上記日程による1次の入学者選抜試験の結果、入学手続者数が募集人数に達しなかった場合に行います。

2026年度 科目履修の概要

2026年度より、科目履修生を募集します。

科目履修とは、本課程の開講科目のうち、課程生の履修に支障がない範囲で特定の授業科目を履修することにより、正規の単位を修得できるものです。履修した授業科目について修得した単位は、本課程の入学前既修得単位としてみなすほか、本学大学院に入学した際に、本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができます。

※科目履修が可能な科目は、パンフレットP.3ページ「授業科目と担当教員」の表をご覧ください。

※1年間に履修することができる授業科目の総単位数は、9単位までです。

※詳細は本課程ホームページ「科目履修生募集」もしくは右記二次元コードを読み取りご確認ください。



授業設計についての知識不足や、実習でより効果的な指導ができるようにという思いから入学しました。授業を受けるたびに、「分かっていないのに教えていた」「カリキュラムに沿った授業内容になっていなかった」ことに気づきました。日々の授業では新たに知ることも多く悪戦苦闘していますが、よい仲間と出会うことが出来、楽しく過ごしています。ここで学んだことを貢献できるように頑張りたいです。

学生にわかりやすい授業を作りたい、多角的思考ができる教員になりたいと、この課程に入学しました。不安と緊張の中、入学すると、看護教育に熱い思いをもった11人の仲間がいました。講師から様々なことを教えていただき、仲間とグループワークをして、毎日充実しています。私たちをサポートしてくださる先生方もいてくださり、恵まれた環境で、目標達成できるように励んでいます。

入学当初、教育理念とは、授業とは、講義とは、の質問にしっかりと答えられない自分がいました。一つ一つの言葉を自分が理解して説明できるようにしなければいけない。また、看護基礎教育機関に戻った際には、この課程で培った学修を学生の目標達成ができるような授業へとフィードバックしていこうと強く思いました。この養成課程で一緒に学ぶ仲間や指導してくださる先生方にも恵まれました。仲間や先生方と共に楽しく頑張っていこうと思います。

看護学校での勤務も3年目となり、先輩方の勧めもありこの学校に入学しました。新しい環境に不安もありましたが、期待を胸に学び始め、1か月が経った今、学びの濃さと教育者としての視点の変化を強く感じています。特に、学生の学びを支える指導技術の重要性を実感し、自身の課題や教育者としての責任の重さを痛感する毎日です。今後は、学生が主体的に学べるよう、指導を工夫し、講義や実習で活用していきたいと思ひます。

私は現在病院に勤務しており元々教員になりたいという想いもあって入学しました。授業が始まってからは一つ一つの授業の内容だけでなく、すべての授業がつながっており前回学んだほかの内容が別の授業につながっているため学ぶのが楽しいと思っています。同じ目標を持った同級生と協力しながら充実した日々を送っていきたいと思ひます。



看護教育に関して様々な角度から講義、演習する機会を得て、内容の濃い学びの日々を過ごしています。来年度の春、看護基礎教育機関に戻った際には、学生の発達や背景を考慮して、今までよりも広い視野と深い知識をもって理解しやすい授業を提供したいと考えています。日々、丁寧にご教授くださる先生方に感謝いたします。

私は他県の総合病院で勤務をする傍ら、実習指導や附属の看護学校での講義をおこなってきました。そして、それらにやりがいを感じて看護教員として看護に携わりたいと思ひ入学を決めました。入学してからは、刺激的で非常に学びが多い毎日過ごしています。またその反面、今までの自分はいかに言葉の意味や意図を深く考えずに指導、講義をしていたかと言う事に気づきました。今は、講義で学ぶ言葉のひとつひとつを調べた上で理解し、意味や意図を考えながら学業に励んでいます。そして、学んだことを地元を持ち帰り、自身の看護教育に生かして質の高い授業ができるようになりたいと考えています。

昨年、看護学実習指導者養成講習会を受講し、多くの学びを得ました。今年度、勤務先の病院からの勧めもありこの課程に入学しました。続けて学べることはとても良い機会を与えていただけたと思ひます。教育機関での経験がなく入学前は不安でいっぱいでしたが、いっしょに学ぶ仲間たちや先生方に支えられ、とても有意義な毎日過ごしています。臨床現場に戻ったときにここで得た学びをどう活かしていくか、常に考えながら、看護教育の実践に必要な力を身につけていきたいと思ひます。

昨年度より看護学校に勤務し、臨床の実習指導者とは違った立場で看護学生に関わるようになりました。授業の展開方法もよく分からず、教員として看護を教えることの難しさを感じていました。授業の内容は難しいと感じますが、悩んでいたことや不安に感じていたことに対して気づきを得られることが多いです。いろいろな経験を持って集まった仲間から刺激を受けながら、乗り越えて成長していきたいと思ひます。

私は、看護学教員養成課程を修了し看護学校の教員として3年目を迎えました。今春、とても嬉しいことがありました。それは、私が授業を通して関わった学生が看護師として働いている姿を見られたことです。日々の講義・演習・実習の授業設計とその展開は正直大変です。しかし、私は「自分が納得するまでする」ことをあきらめないようにしています。学生の反応や授業後の感想カードをもとに自分の教授活動を評価し、ブラッシュアップしていくことが楽しめるようになってきました。今後も、学生と共に私自身も学び続けていきたいです。

11期生 総合病院の看護師から看護師養成教育機関の教員となった Tさん

私は臨床から看護学校へ異動した1年、学生との関わり方に悩み、授業を行うことが不安でした。

看護学教員養成課程で看護学教員の役割は、教育目標達成に向けて学生にわかりやすい良い授業を行うことだということを学び、そのために必要な知識や技術を学ぶことができました。現在も、学生指導や授業設計に悩むことがありますが、看護学教員養成課程で学んだことに立ち返り、職場の修了生の同僚に相談しながら看護学教員の役割が果たせるようにしています。これからも、看護学教員としての自分の信念を持ち学生と関わっていきたいと思っています。

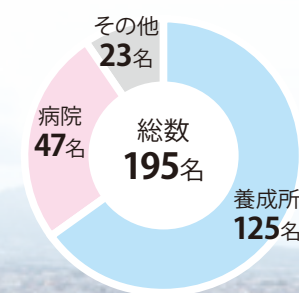
11期生 看護師養成教育機関の教員を継続している Hさん

13期生 修了式

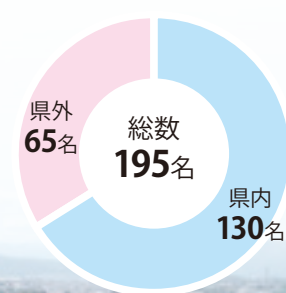


修了生の状況

入学時就業先



修了生数



県外

埼玉県、栃木県、長野県、新潟県
富山県、石川県、福島県、山形県
岩手県、宮城県、青森県、三重県

■ 学生募集要項(願書含む)の請求方法

群馬県立県民健康科学大学看護学教員養成課程までご請求ください。

ホームページからもダウンロードできます。

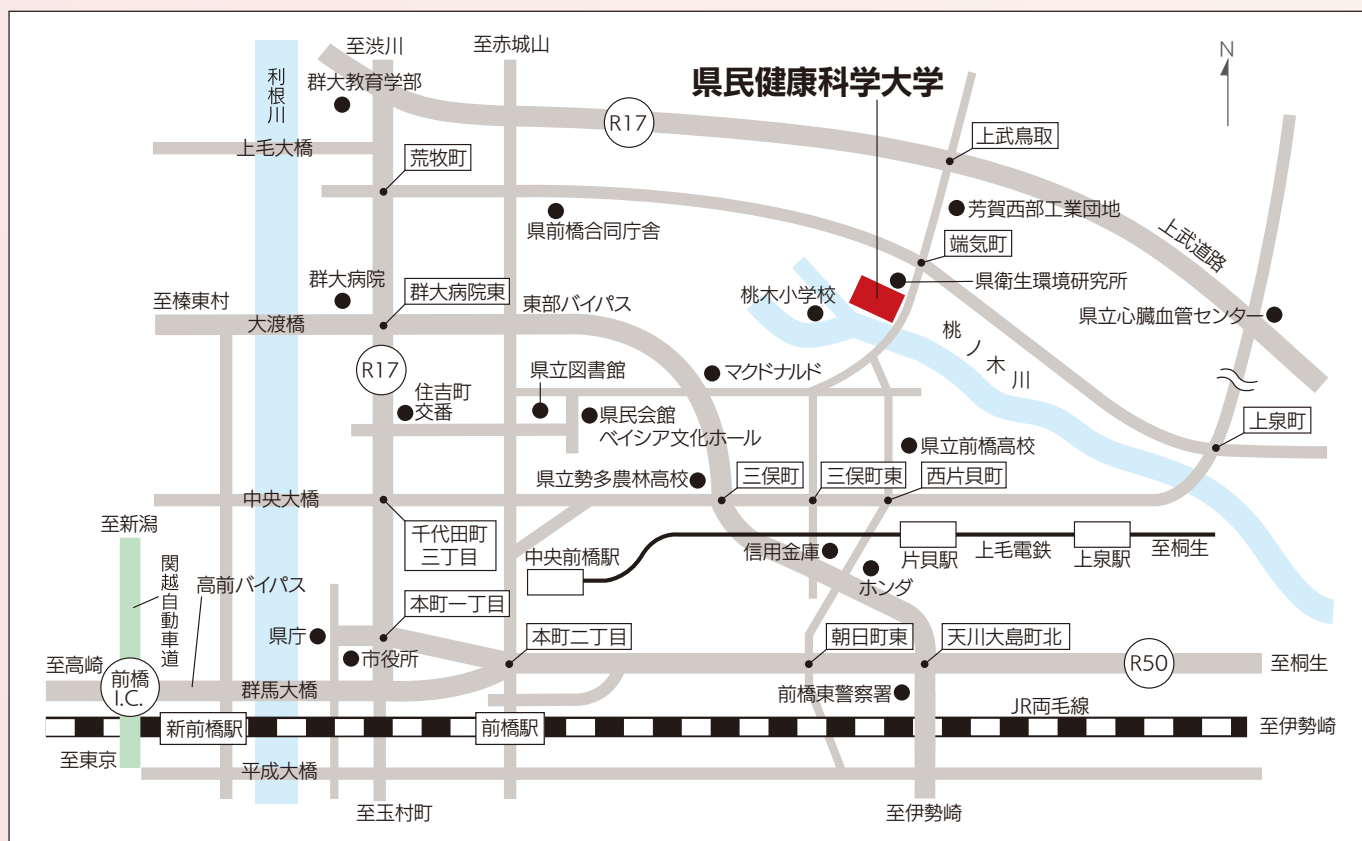


群馬県立県民健康科学大学

Gunma Prefectural College of Health Sciences
看護学教員養成課程

〒371-0052 前橋市上沖町323-1 Tel.027-235-1211 Fax.027-235-2501

URL <https://www.gchs.ac.jp> E-mail: kyouinyousei@gchs.ac.jp



access

[公共交通機関]

- JR「前橋駅」北口6番乗り場、永井バス小坂子、または荻窪公園行き「県民健康科学大学前」下車
- 上毛電鉄「片貝駅」から徒歩約15分

[自動車]

- 関越自動車道前橋I.C. から約20分